



こころをつなぐまちづくり

人権シリーズ vol.105

フィールドワーク

〜長崎の部落史を歩く〜

くにさき地区人権・同和教育協議会の第二回研修で、長崎県の部落史を歩くフィールドワークに参加しました。

スタート場所の崇福寺は、長崎で貿易を行っていた福建省出身の華僑の人々が創建した寺院で、中国様式の寺院としては日本最古であり、大雄宝殿・第一峰門は国宝に指定されています。

創建の頃は、キリシタンに対する弾圧も厳しさを極め、唐人屋敷ができるまで中国人は市中に住んでいただけもあり、キリシタンでない証明が必要でした。出身地域ごとの唐寺の創建には、こうした背景がありました。島原の乱後には、寺院が檀家であること（キリシタンでないこと）を証明する寺請制度も始まり、全ての人がどこかの寺院に所属することになりました。



寺院創建の背景にキリシタン弾圧があり、その結果として、長崎に寺院が多くあるのだということが知ることができました。

年、大村純忠は、貿易の利を得るため長崎をイェズ会に寄進しました。一五八七年、豊臣秀吉によるパレン追放令により教会領であった長崎を没収、直轄領とし、長崎奉行が置かれました。長崎には、博多や豊後などの貿易商人が集まり内町と呼ばれる二十三町（本博多町、豊後町等）が造られました。

さらに、外町には職人町が造られました。材木町、酒屋町、魚町、桶屋町など仕事に由来する町名が多く、寛文期には八〇カ町になりました。職人町の一角に見られる皮屋町は、寺町通りに面する幣振坂の上であり、輸入牛皮を加工する職人町として長崎の町づくりの中で形成され、被差別部落の原型となりました。

「ししとき川」の上流には毛皮屋町があり、鹿皮の革製品が作られていました。「ししとき」とは「鹿解」のことで、鹿の解体も行われていたと思われまます。鹿皮は江戸時代を通じて牛皮を扱った皮屋町の人々と違い、町人が扱っていました。同じ皮製品を扱う職業でありながら、鹿皮を扱う人々は、差別されることがなかったにもかかわらず、牛皮を扱う人々が差別されるのは、いかに作られた差別かと感じた人は、私一人ではないと思います。

江戸時代長崎の被差別部落は、二度の移転を経験し、皮屋町といった被差別部落は、明治になり浦上山里村馬込郷の一地域となり、その後長崎市に編入され、大正二年浦上町となりました。

戦後、都市計画による浦上町を縦断する道路が建設されましたが、まさに部落を消し去ろうとするかのような工事でした。昭和三十九年「浦上町」は消滅し、三町に分割されました。浦上部落の人々にとって、唯一残ったのは共同墓地だけでした。

国東町 人権フェスティバル

大分県出身の子育てシンガーMONさんによる、いのちや人権をテーマにした「トーク&コンサート」を開催します。数多くの方々に感動や共感を与えています。ご期待ください。

日時 3月7日(土) 午前9時30分～12時
場所 アストくにさき「アストホール」
内容 人権作文・詩の朗読、人権コンサート、作品展示など
〔問合せ先〕 社会教育課 ☎0978-72-2121

全部は紹介しきれませんが、今回のフィールドワークを通して、被差別部落に差別される理由はなく、職業や地域への偏見によるいわれのない差別であると改めて痛感しました。
〔文責〕 国見分室 伊美
〔参考〕 NPO法人長崎人権研究所ガイドブック

第8回国東市隣保館まつり 「川柳」応募作品

遠来の友が乾杯クラス会
安岐町 浅井 幸一
友だちの友だちがいて和を広げ
国東町 平永 光

市長室から こんばんは NO.45

市長日記



未年の正月

国東市長 三河 明史

平成27年は、未年。羊は家族の安泰や平和をもたらす縁起の良いものとしてきました。今年は、未のように穏やか安寧な一年になれば良いなあと思っていたところ、年の夜から正月の二日頃まで天候が荒れましたね。大晦日、紅白歌合戦が終わり除夜の鐘が鳴る頃、外はかなりの強い風が吹き荒れており、お寺に行こうか行くまいか迷っていました。亡父の位牌ができたので白木の位牌を焼くのですが、この天気ではなあ・・・。

でも、位牌を布に包み1キロほど先の寺に急ぎました。さすがに人手は例年より少ないようでしたが、三々五々集まって来ました。それぞれ口々に「おめでとうございます」と新年の挨拶を交わしながら、お参りしたり甘酒をいただいたりしています。私は鐘をつき、お参りしてから、火のそばに行きました。

火は勢よく燃えています。位牌を取りだし、声をかけてから火の中に投じました。何と声をかけたか覚えていませんが、白木の位牌はオレンジ色の炎の中で徐々に炭化していきます。その様をじっと見ながら、父が亡くなってからもう一年近く経っているんだなあとしみじみ思いました。



年明けは強い風と少しの雪と冷たい気温の正月でした。外には粉雪が舞い、ゴーゴーと風が吹いています。最近の気象をみると、かなり荒っぽいと言うか極端な天気が多くなった様に思えます。雨が降れば豪雨、雪は豪雪、竜巻や強風。温暖化の影響でしょうか。

今年、災害の無い穏やかな一年であることを祈ります。

アストくにさき内のテナント募集

国東市民の憩いの場として、また図書館利用と連動し、地域文化・観光情報等の発信基地として、来訪者への情報提供の機能を併設したカフェ施設を、アストくにさき内に設置するためにテナントを募集します。

- 【募集業種】 飲食業（国東の食材を活用した喫茶メニュー・ランチメニュー）
- 【設備】 アストくにさき厨房設備とオープンスペースを活用
- 【実施時期】 平成27年6月末までにオープン予定
- 【営業時間】 アストくにさき開館日の午前10時～午後6時
- 【運営】 民間に厨房設備を賃貸し、事業運営は民間主体で行います。
- 【初期費用等】
 - ・初期設備費として改修工事費等約1,000万円の全額（概算見積額のため変更する場合があります）
 - ※ただし、大分県の総合補助金制度を活用可能
 - ・施設使用料は5年間免除
 - ・光熱水費は実費負担
- 【申込み期限】 3月6日(金)
応募者多数の場合は、選考委員会により3月末までに決定します。



▲オープンスペース

詳しくは、市ホームページをご覧ください。

〔申込み・問合せ先〕 社会教育課 管理係（アストくにさき1階） ☎0978-72-2121